

# 調査を発信する技術

2010年4月24日 松尾浩一郎

調査の成果をほんとうに伝えたい人によりよく届けるためには？

## 1 伝えることを工夫する契機

- a) 内なる発信の欲求
- b) 外からの発信の要求

両者は矛盾することが多い。両者を同時に満たそうとすると大きな負担が課せられることも珍しくない。本報告では主に後者に注目し、その要求のなかでよりよく調査の成果を伝えるための戦略と技術について論じる。後者の要求に無理なく応じること、前者とのギャップを埋めていくこと、要求を満たしながらもそれにおもねらず、研究者・調査者としての心身の独立を保つこと……。それに役立つ基礎技術となる DTP をめぐるあれこれについて紹介する。

## 2 求められている発信のスタイル

### 2.1 多方向

- a) スポンサーや所属機関に向けて報告書を執筆すること
- b) 研究者コミュニティに向けて論文を発表すること
- c) 被調査者に向けてフィードバックすること
- d) 一般に向けて

とくに質的調査のばあい書き分けることは簡単ではない

→ 表現すべき要素の非一貫性（分厚い記述、「質」の再現、科学論文、要約……）

優先順位の問題

書き分ける戦略（書き分けない戦略）

→ その戦略を支える資源（支持者・制度・自分のスキルなど）

## 2.2 被調査者中心主義

- a) プライバシーへの配慮の要求
- b) 調査倫理の要求

被調査者をはじめとしたコンシューマー側から非難される潜在的可能性  
プロバイダー側の及び腰？

- 積極的に責任をとり踏み込んでいけるのは調査者本人だけ
- 発信のプロセスを自分でコントロールする

cf. 「学問の自由」「言論の自由」という問題設定  
少なくとも「支援される権利」ではない

## 2.3 収益の確保

出版事情の悪化

「教科書に指定できる授業はいくつありますか」  
「300ページを超えるような本は厳しいです」  
「字を小さくして行数も増やしましょう、大丈夫ですよ」  
四六判260ページで定価4,200円

研究費の問題

研究する労力よりも資金獲得競争や研究費管理に費やす労力が大きい？  
はたして「科研費が当たらないと研究ができない」という態度のままでいいのか？

環境の変化に合わせ、かつ持ち出しにせずに研究を続ける工夫を  
→ 一身独立（福澤諭吉、学問のすゝめ第3編）

cf. 表現者・福澤諭吉の一身独立

- a) 他人の智恵に依らざる
- b) 他人の財に依らざる

明治2(1869)年に福澤屋諭吉として問屋仲間に参加し出版事業の自営化に着手  
明治5(1871)年に慶應義塾出版局を設立

- 福澤は著作権保護を厳しく求めたが単なる「拝金宗」のためではない

### 3 環境の変化と新しい可能性

#### 3.1 学術出版の未来は？

学術出版状況の困難は少なくとも半世紀前からささやかれ続けてはいるが……  
数の上での増大、収益の悪化  
編集・制作の「作り込み度」が落ちていることは間違いない

#### 3.2 メディア環境の変化

ウェブベースへの移行

電子出版

- 制作・流通の簡素化のためのものであり、表現を豊かにするためのものとはいえない
- 質的調査の表現形態としての「質」の低さ

#### 3.3 書籍制作の変化

印刷の簡易化

凸版→オフセット→オンデマンド

組版の簡便化

活版→写植→DTP

オペレータの非熟練

単価の低落、外国での制作

印刷出版業界の分業システムの綻び

- 無理してでも必ず手を組む必要のある相手とはいえなくなってきた
- 自分で思い通りにできないか？

cf. 竹熊健太郎「それでも出版社が「生き残る」としたら」

「電子出版の時代になっても、出版責任の代行業としての出版社は生き残るのではないか」

<http://takekuma.cocolog-nifty.com/blog/2010/01/post-9fd2.html>

## 4 DTP・組版の表現技術

### 4.1 どこまで自分でできるか

印刷・製本は難しい

→ オンデマンドという可能性、安いオフセット印刷の選択肢

流通は難しい

→ ISBNの取得は意外と簡単、Amazonの「e託販売サービス」

いわゆる完全版下（組版データ）をDTPでつくることは十分に可能

→ 校正や編集に第三者の眼が入ることは望ましいが……

### 4.2 表現としての組版

紙面の印象をコントロールする

- a) 余白
- b) 行間・字間
- c) 書体
- d) 装飾的要素

読者にとっての作品の「質」を左右する要因

読み手は意識せず「当たりまえ」に感じている空気のような要因

組版で表現するための条件

歴史的背景の理解

組版ルールが存在（出版社ごとのハウスルールもあるが偏差は少ない）

専門の職人が守ってきたルール

→ ルールの守り方、そこからの逸脱の仕方によって個性を表現できる

cf. ベタ組

文字は原稿用紙の升目のように並ばなければならない

字間のスペーシングの単位（全角・二分・三分・四分・八分・ベタ）

原則通りでは美しくない個所の処理方法

cf. 福澤諭吉『文明論之概略』1875年

組み方自体が表現になっている例

活版印刷の導入期

伝統的な知識人にアピールするため、初版はあえて木版印刷とし太平記の体裁を採用

#### 書体による表現

精興社の専用明朝体（岩波現代文庫など）

欧米で多い企業や出版社の制定書体（Sage=Palatino、ドイツ連邦政府 Demos など）

サントリーのコーポレート書体、雑誌『AXIS』の専用書体

#### 近年の組版の乱れ

DTP の導入などによる作り手側の質の低下

ワープロや Microsoft Word に慣れた受け手側の意識

#### 4.3 DTP で作品をつくる

現在では「プロ」も普通のコンピュータを使って組版している

→ プロと同等の環境をつくるのは容易

→ 内容を理解している著者の方が、下手なプロより上質なものを作れる可能性がある

#### Adobe InDesign

デファクト・スタンダードの組版ソフトウェア

ベタ組の組版ができる

微妙なスペーシングが自由にできる

大量のページを簡単に管理することができる

高価だがリーズナブル（定価 93,240 円／学生教員価格 28,140 円／指定校割引も有）

#### フォント

モリサワが最大手（<http://www.morisawa.co.jp/>）

明朝体だけでも 50 種類ぐらいの書体がある

学生専用 30 書体パッケージ（9,975 円／1 年、20,790 円／4 年）

Pack for Vista（Windows 用基本 7 書体セット 11,790 円）など

#### 印刷・製本

一般客向けの少部数印刷を受け付けている印刷所や出力センターがある

株式会社グラフィック（<http://www.graphic.jp/>）などのウェブ通販

#### 文献

モリサワ編、2005、『文字組版入門』日本エディタースクール。

### ① MS P 明朝

ベタ組ができない。マイクロソフトは欧文の方式をそのまま日本語に適用してしまった。解像度を抑えたためデザインにも難がある。

——「馬場さんにとっての生きがってなんですか」って、たとえばきかれました、インタビューで。したら、どう答えます？ どういう答え方でもいいんですよ。真面目に答えなくたっていい……真面目にというか、その、堅苦しく杓子定規に答えなくてもいいんですけど。

(馬場) うーん。生きがってあんのかなあ。すべてが生きがいなのかなあ。言っちゃえば。そんなのはあれかい？ 欲張りかい？ すべてが生きがっていう……。

### ② リュウミン

1990年代後半以降の書籍では最大シェアを占めている。クセがなく無色透明な雰囲気なため、教科書や専門書、官公庁刊行物でもよく使われる。

——「馬場さんにとっての生きがってなんですか」って、たとえばきかれました、インタビューで。したら、どう答えます？ どういう答え方でもいいんですよ。真面目に答えなくたっていい……真面目にというか、その、堅苦しく杓子定規に答えなくてもいいんですけど。

(馬場) うーん。生きがってあんのかなあ。すべてが生きがいなのかなあ。言っちゃえば。そんなのはあれかい？ 欲張りかい？ すべてが生きがっていう……。

### ③ イワタ明朝体オールド

文芸書などで多く使われた岩田明朝体活字をデジタル化したフォント。整いすぎておらずアクセントがある。活版時代より細くなった。

——「馬場さんにとっての生きがってなんですか」って、たとえばきかれました、インタビューで。したら、どう答えます？ どういう答え方でもいいんですよ。真面目に答えなくたっていい……真面目にというか、その、堅苦しく杓子定規に答えなくてもいいんですけど。

(馬場) うーん。生きがってあんのかなあ。すべてが生きがいなのかなあ。言っちゃえば。そんなのはあれかい？ 欲張りかい？ すべてが生きがっていう……。

### ④ 秀英明朝

最も長い伝統をもつ書籍本文用書体。大日本印刷の専用書体だったが、最新の印刷環境に適合するよう修整が加えられフォントとして発売された。

——「馬場さんにとっての生きがってなんですか」って、たとえばきかれました、インタビューで。したら、どう答えます？ どういう答え方でもいいんですよ。真面目に答えなくたっていい……真面目にというか、その、堅苦しく杓子定規に答えなくてもいいんですけど。

(馬場) うーん。生きがってあんのかなあ。すべてが生きがいなのかなあ。言っちゃえば。そんなのはあれかい？ 欲張りかい？ すべてが生きがっていう……。